

2017年度 人権NPO協働助成金 交付先

※下記の内容は申請書に基づき事務局が抜粋加工させていただいています。

※内容については、取組みが進む中で変更が生じることがあります。

一般財団法人 大阪府人権協会

団体名	一般社団法人 ELLY	特定非営利活動法人南大阪サポートネット	特定非営利活動法人 共生と自立のまちづくり・ふれあい	西成教育サポート6校連絡会
重点	持続可能な活動の仕組みづくり	持続可能な活動の仕組みづくり	当事者のつながりづくり	持続可能な活動の仕組みづくり
企画名	性別って2つだけ?~知らないでは済まされないLGBT~	ひきこもりの若者がつなぐ“地域の絆ホットランチ”配食事業	ようこそ矢田へ~外国にルーツのある子どもと保護者への支援~	小中学校での今日的な部落問題を伝える教材づくり事業
課題	LGBT当事者の児童・生徒を取り巻く環境に置いて、教員の正しい知識不足による影響は非常に大きい。現状の教職課程ではLGBTに関する知識を学ぶ機会はない為、教員側が指導することが出来るのか不安が残る。クラスに一人は存在する当事者の子ども達は、まだまだ教員の知識不足により傷つくケースが多い。	ひきこもりの問題は、年齢層も幅広く長期化する傾向にあり、その理由も多岐にわたるため、大きな社会問題となっている。これらの問題に対し、いくつかの自立支援がされているが、そのほとんどは一般企業への就労支援である。引きこもり当事者の最初の一步を踏み出しやすく、あたたかい関わりの中で小さな成功体験を積み重ねられる場がほとんどないのが現状である。	矢田にある7校全ての小・中学校には、外国にルーツのある子どもが在籍しており、その保護者とともに暮らしている。地域に住む外国にルーツのある方の多くが「多様性が尊重されている」と感じる事が出来ない状況にあると考えられる。	大阪市内では2002年に特別措置法が終了して以降、小中学校で部落問題を教える機会が減少している。また、若い教員も大学で部落問題を学ぶ機会が減ったため、こどもに部落問題を教えることが難しくなっている。そのため、こどもたちが部落問題を十分に学ぶことができない状態となっている。
目標	教員が正しい知識を学ぶことで、LGBTに関する悩みを持つ当事者の子ども達が安心して過ごせる環境(学校)を増やす。	支援者のあたたかい関わりの中で、自分の行為が誰かのためになり、地域のためになっているという実感、すなわち自己有用感とともに“自分でも大丈夫”という自己肯定感が持てるようになること。人と関わることの喜びを感じることができるよう小さな成功体験を積み重ねる機会と場所を提供できる環境の整備。	外国にルーツのある子どもとその保護者に対して、矢田のまちづくりは「多様性を尊重する」というメッセージを届ける。外国にルーツのある人々が、ともに矢田で暮らす住民として、まずは子供のいる世帯に共助の仕掛けをつくっていく。	西成区北西部の小中学校の教職員・児童の部落問題の認識が深まる。教職員・児童が部落差別を学ぶことで人材感覚豊かな人材が増える。
内容	大阪府下の小・中・高校で教員向けにLGBT研修を実施し、研修後にLGBTサポートブック(教員向けと生徒向け)の配布。	[お弁当作りと配食] 支援者とひきこもり当事者が協力しながらお弁当を作り、配食する。当事者はそれにより、外出する機会を増やすことが出来る。	外国にルーツのある保護者への ①敷居の低い相談窓口 ネットワークを活かした相談会 ②保護者のネットワークづくり 「Welcome 矢田 MAP」の作成と料理会(交流会)	教職員と会議や学習会を行い、教職員に部落問題を伝えるための冊子を作成し、報告会を行う。

			③「多文化共生フェスティバル」	
協働	大阪府下の学校への周知活動や 教育現場関係者との協議	人権協会のネットワークを活用 しての情報発信、広報支援 他の引きこもり支援団体の情報 提供、連携の橋渡し・他の助成 金等の情報提供	人権協会の総合相談事業のノウ ハウや、広範なネットワークを活用 した支援	部落問題に精通している講師の 紹介・派遣